

## 令和2年度補助系統別事業評価票(横須賀(A)線)

## 1. 補助システムの概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
横須賀(A)	知多乗合(株)	知多乗合(株)	大府駅前・尾張横須賀駅	8.2km	12.4回	大府市・東海市
細系統				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)	模式図(△□)
<p>&lt;接続する系統&gt;</p> <p>東海旅客鉄道東海道本線・武豊線 名古屋鉄道常滑線 名古屋鉄道河和線</p> <p>&lt;接続される系統&gt;</p> <p>知多乗合大府線 東海市循環バス 大府市循環バス</p>	

## 2. R1年度の運行状況

事業実施の適切性	評価の基準	《参考数値》 主要指標の推移(△)																														
<p>計画どおり運行されたか(△)</p> <p>評価 計画どおりか。そうでない場合は理由</p> <p>A 事業計画どおり運行回数が確保されている</p>	<p>A → 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合</p> <p>B → 車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休(一部区間の運休を含む)が生じた場合</p> <p>C → 系統廃止に至る場合</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年間利用者数[人]</td> <td>72,032</td> <td>65,561</td> <td>85,243</td> <td>87,009</td> <td>88,839</td> </tr> <tr> <td>平均乗車密度(実績)</td> <td>3.2</td> <td>3.0</td> <td>3.8</td> <td>3.9</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>輸送量(実績)</td> <td>39.6</td> <td>37.2</td> <td>47.1</td> <td>48.3</td> <td>49.6</td> </tr> <tr> <td>収支率(実績)</td> <td></td> <td>59.9%</td> <td>78.3%</td> <td>79.0%</td> <td>60.7%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	年間利用者数[人]	72,032	65,561	85,243	87,009	88,839	平均乗車密度(実績)	3.2	3.0	3.8	3.9	4.0	輸送量(実績)	39.6	37.2	47.1	48.3	49.6	収支率(実績)		59.9%	78.3%	79.0%	60.7%
年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																											
年間利用者数[人]	72,032	65,561	85,243	87,009	88,839																											
平均乗車密度(実績)	3.2	3.0	3.8	3.9	4.0																											
輸送量(実績)	39.6	37.2	47.1	48.3	49.6																											
収支率(実績)		59.9%	78.3%	79.0%	60.7%																											

目標・効果達成状況			
評価	目標の達成状況(△)	運営主体の所見、理由分析、認識(△)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
A	目標 85,850	前年と比べて利用者数は増加した。目標の数値にも達し目標比の103.4%であった。今後もより一層、利用促進を図る必要がある。	市町村名: 大府市
	結果 88,839		各主要指標について概ね前年から増加し、年間利用者数が目標を達成している。 一方、収支率が前年より大幅に低下している。これは、新型コロナウイルス感染症の影響等によるものと推察する。 いずれにしても、地域間幹線系統路線としての重要な公共交通サービスを維持していくため、利用促進策等の継続した取組が必要である
	特記事項		
評価の基準			
A	→ 年間目標利用者数を達成できた場合		
B 1	→ 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の75%以上の利用があった場合	市町村の所見、理由分析、認識(□)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
B 2	→ 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合	市町村名: 東海市	市町村名:
C	→ 年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合	各主要指標とも前年度から順調に増加している。今後も、継続的な利用促進策を図る必要がある。	

複数市町村を跨ぐ系統としての役割					
指標(市町村を跨いでの利用)	利用状況及び所見(△)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)	
市町村を跨ぐ	3,658 人/月	市境をまたぐ利用が5割以上あり、広域的な路線の役割をはたしている。	市町村名: 大府市	市町村名: 東海市	市町村名:
全利用者に占める率(△)	53.8 %		大府市、東海市ともに高等学校近くに停留所があることや、鉄道駅を結ぶことによる通勤・通学利用者が多い。また、所轄の警察署まで行く手段でもある。	知多バス上野台線と共に、東海市と大府市を結ぶ重要な公共交通手段であり、通勤・通学等の利用がみられる。	
特記事項	2020年6月4日及び6月5日実施のOD調査結果をもとに算出				

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体(断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等)(△)	沿線市町村(沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載)(□)
<p>大府駅前: およそ150人/日</p> <p>尾張横須賀駅: およそ50人/日</p> <p>市町村境の断面輸送量は上記のとおり</p>	<p>JR大府駅乗車人員(H30年度、知多半島の統計 令和元年版): 14,753人/日</p> <p>名古屋鉄道尾張横須賀駅利用者数(R元年度): 1,992,214人※</p> <p>名古屋鉄道高横須賀駅利用者数 (R元年度): 1,113,027人※</p> <p>東海市循環バス中ルート輸送人員(R2年度): 122,562人</p> <p>東海市循環バス南ルート輸送人員(R2年度): 114,388人</p> <p>大府市循環バス東コース輸送人員(R2年度): 23,332人</p> <p>大府市循環バス西コース輸送人員(R2年度): 22,203人</p> <p>大府市循環バス南コース輸送人員(R2年度): 29,518人</p> <p>大府市循環バス中央コース輸送人員(R2年度): 50,154人</p> <p>※名古屋鉄道駅利用者数は会計年度(4月～3月)</p>

3. R1年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
A	沿線自治体と連絡し、広報等に路線時刻表を掲載する等の取組みを展開した。	市町村名： 大府市	市町村名： 東海市	市町村名：
改善点とした事項(△) ホームページ、広報誌を活用したPR、時刻表の掲載等		相互利用促進のため、大府市循環バスの路線図・時刻表に横須賀(A)線への乗継箇所を明示し、公共施設窓口及び市内主要施設へ配置した。	東海市のホームページに知多乗合や近隣自治体ホームページのリンクを行い、他のバスへの乗り換えについて周知を行った。	
関係者の連携等(△□)	沿線施設等への路線周知等を行い、施設利用者のバス利用促進に努めた。			

4. 今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
新型コロナウイルス感染症の影響により、路線バスの利用者数が減少傾向にあるため、一層の利用促進に向けた取組を進める必要がある。	市町村名： 大府市 大府市循環バス・東海市循環バス・知多乗合株式会社路線バス等の相互利用促進に向けた取組が必要である。	市町村名： 東海市 東海市・大府市・知多乗合株式会社の三者が連携し、利用促進に向けた取組が必要である。	市町村名：

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
R2年度、R3年度に行う取組	2020年度中に当社ホームページの刷新を行い、利用者の利便性向上に関する取組を進める。また、利用しやすいダイヤ設定とその周知を継続して行う。	市町村名： 大府市 横須賀(A)線のPR活動を継続するとともに、路線バスにおける利用者増加策を三者で模索する。	市町村名： 東海市 東海市の時刻表を配布する際に、路線バスの時刻表を併せて配布する。 また、路線バスにおける利用者増加策を三者で模索する。	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあつては、目標の達成状況についての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通網形成計画に記載した補助システムの目標と評価

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
目標	市町村名： 大府市 会計R6年度目標値 知多バス横須賀線利用者数:250人/日	市町村名： 東海市 平成26年度の利用者数の水準を維持 (市内路線バス利用者数:367,000人/年) (横須賀(A)線利用者数:53,996人/年)	市町村名：
自己評価	「大府市地域公共交通計画」はR2年10月1日策定のため、R2年度は当計画期間外ではあるが、計画目標に向けて、より一層の利用促進に向けた取組を進める必要がある。	目標としている利用者数を上回っているものの、東海市内の乗降客数は多くないため、利用促進に向けた取組を継続する必要がある。	

7. 補助システムに接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
市町村名： 大府市	市町村名： 東海市	市町村名：
(R2年度) 大府市循環バス東コース輸送人員:23,332人 大府市循環バス西コース輸送人員:22,203人 大府市循環バス南コース輸送人員:29,518人 大府市循環バス中央コース輸送人員:50,154人	(R2年度) 東海市循環バス中ルート輸送人員:122,562人 東海市循環バス南ルート輸送人員:114,388人	

<p>通信欄 (この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)</p> <p style="text-align: right;">※適宜、セルの結合を変えて利用してください</p>
---